

2025年度第1四半期決算の概要及び 2025年度上期業績予想の概要

三井化学株式会社

本資料の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2025年8月7日

目次

1. 決算及び業績予想のポイント	
1) 2025年度第1四半期決算の概要	・・・1
2) 2025年度第1四半期決算のポイント	・・・2
3) 2025年度上期業績予想のポイント	・・・3
2. 2025年度第1四半期決算の概要	
1) 主要関連市場動向	・・・5
2) 主な投資案件等の状況	・・・6
3) 第1四半期決算の概要	・・・7-8
4) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減（対前年同期）	・・・9
5) セグメント別 コア営業利益増減/事業動向（対前年同期）	・・・10-13
6) 非経常項目の内訳	・・・14
7) 財政状態計算書	・・・15
8) キャッシュ・フロー計算書	・・・16
3. 2025年度上期業績予想の概要	
1) 上期業績予想の概要	・・・18-19
2) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減（対前年同期）	・・・20
3) セグメント別 コア営業利益増減/事業動向（対前年同期）	・・・21-24
4) セグメント別 コア営業利益増減（1Q→2Q）	・・・25
5) キャッシュ・フロー計算書の予想	・・・26
4. 補助資料	・・・28-33

1. 決算及び業績予想のポイント

1) 2025年度第1四半期決算の概要

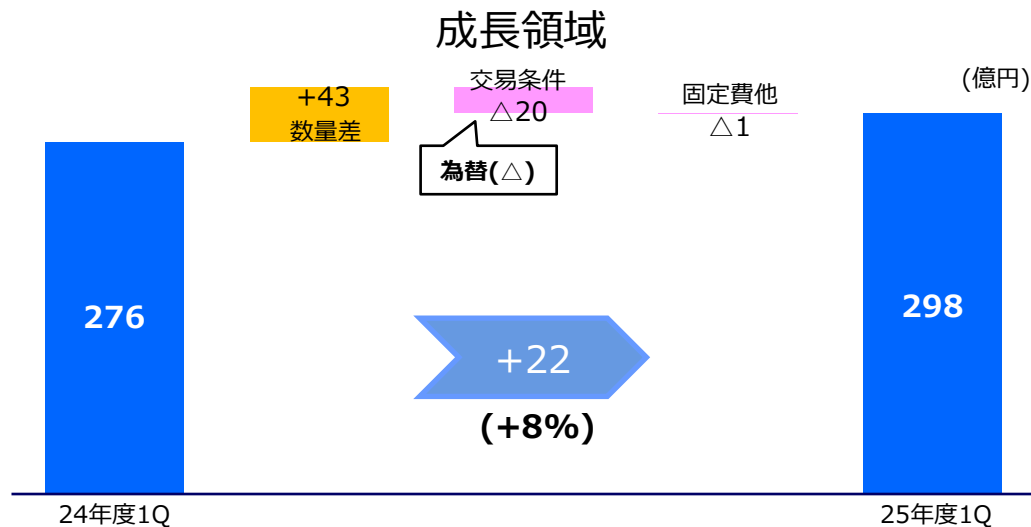
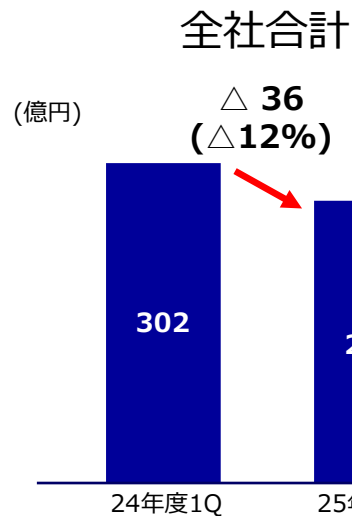
- **成長領域の販売堅調**により、コア営業利益は、順調に進捗
- **事業構造改善の進捗**により、中国PH事業JVに関する減損損失および成長領域における関連事業損失を計上
- **米国関税政策の影響**は、足元1Qでは大きな影響はなく、当初見込んだ直接影響は限定的と見込む。1Q前倒し影響も含め、2Q以降は引き続き需要面での間接影響を注視し、損益への影響についてはコスト削減等も行い最小化する。
 - モビリティソリューション：自動車生産台数の減産はあるも、グローバルな拠点体制を活かし影響を最小化する
 - ICTソリューション：半導体分野において影響を見込んでいたが、足元では影響は限定的と想定される
 - ライフ&ヘルスケア・ソリューション：農薬分野において影響を見込んでいたが、足元では影響は限定的と想定される
- **大牟田工場でのガス漏洩**は、一部プラントの停止はあるも、当面出荷対応に問題なし(引き続き影響精査)
- **配当予想**は、中間75円/株、年間150円/株の変更はなし

(単位：億円)

摘 要	25年度 1Q決算	25年度 上期予想	内容
コ ア 営 業 利 益	266	490	
(うち、成長領域)	298	580	販売堅調により順調に進捗
(うち、ベーシック&グリーン・マテリアルズ)	△ 29	△ 80	原料価格下落に伴う在庫評価損
非 経 常 項 目	△ 138	△ 180	事業構造改善：中国PH事業JV、Kulzer、ARRK
親 会 社 の 所 有 者 に 帰 属 す る 四 半 期 利 益	7	75	

- 全社のコア営業利益は、成長領域の販売数量増加があったものの、ベーシック＆グリーン・マテリアルズにおけるナフサ価格の下落に伴う在庫評価損等により前年比△36億円（△12%）減益の266億円となった。
- 成長領域のコア営業利益は、円高による為替差損があったものの、販売数量は全般的に堅調に推移したため、+22億円（+8%）増益の298億円となった。

■ コア営業利益増減

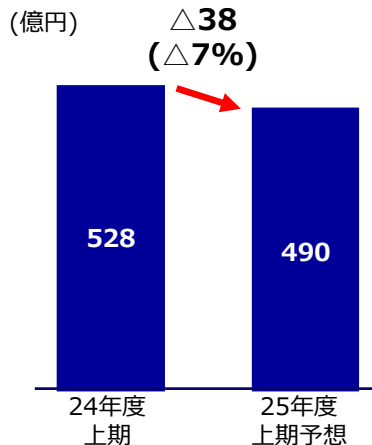


3) 2025年度上期業績予想のポイント：コア営業利益

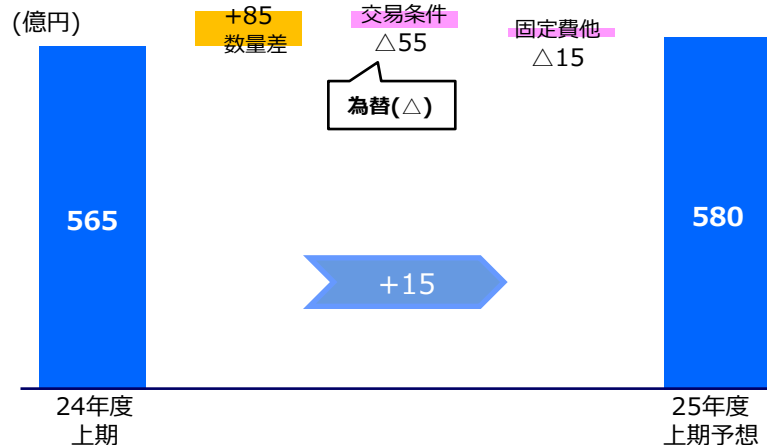
- 全社のコア営業利益は、成長領域の販売数量増加+85億円により+15億円の増益を見込むものの、ベーシック&グリーン・マテリアルズの△54億円の減益により、前年比△38億円(△7%)減益の490億円を見込む。
- ・ 成長領域は円高による為替差損はあるものの、ライフ&ヘルスケアはビジョンケア・農薬を中心に堅調、モビリティは多用途展開の進展、ICTは先端領域の需要拡大・半導体市場回復に伴い、販売数量増加を見込む。
- ・ ベーシック&グリーン・マテリアルズは事業構造改善およびエチレンプラントトラブル影響の解消はあるものの、ナフサ価格の下落に伴う在庫評価損・市原大規模定期修理・低稼働影響により、前年比△54億円の減益を見込む。

■ コア営業利益増減

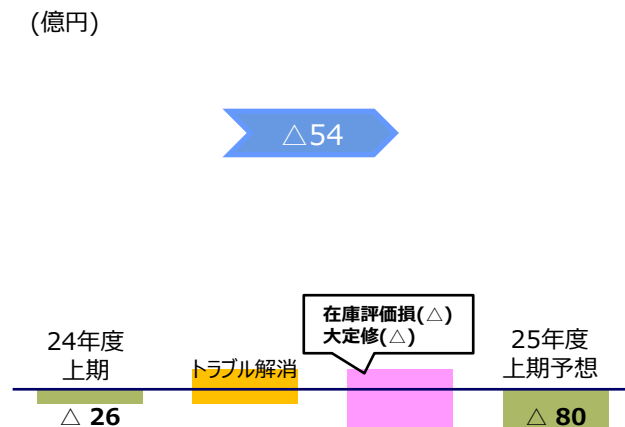
全社合計



成長領域



ベーシック&グリーン・マテリアルズ



2. 2025年度第1四半期決算の概要

・25年度より、エム・エーライフマテリアルズ株式会社はライフ＆ヘルスケア・ソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。また、他一部の関係会社についてモビリティソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。
なお、24年度のセグメントも、変更後の報告セグメント区分に基づき作成しております。

1) 主要関連市場動向

関連市場		25年度			25年度上期予想 (対24年度上期比較)	
		1Q	2Q	25.1Q→ 25.2Q		
ライフ& ヘルスケア・ ソリューション	メガネレンズ市場	堅調に推移	堅調に推移	➡	堅調に推移	➡
	農薬市場	一部在庫調整はあるも 堅調に推移	一部在庫調整はあるも 堅調に推移	➡	堅調に推移	➡
モビリティ ソリューション	自動車生産台数(世界) *			➡		➡
	日本	米国関税政策の影響はあるも、 グローバルな生産台数に 大きな変化なし	米国関税政策の影響はあるも、 グローバルな生産台数に 大きな変化なし	➡	米国関税政策の影響があり、 グローバルな生産台数は減少	➡
	北米			➡		➡
	中国			➡		➡
	ASEAN			➡		➡
	欧州			➡		➡
ICT ソリューション	半導体市場	需要は回復傾向	需要は回復傾向	➡	需要は回復	➡
	スマートフォン市場	需要は前年並みに推移	需要は前年並みに推移	➡	需要は前年並みに推移	➡
ベーシック& グリーン・ マテリアルズ	クラッカー稼働率	低稼働(大規模定期修理：6月～8月)		➡	低稼働(大規模定期修理)	➡

* 外部機関参考による当社推定値

2) 主な投資案件等の状況

主な投資案件		時期	能力	FY23	FY24	FY25	FY26以降
ライフ & ハルスケア・ソリューション	メガネレンズモノマー能力増強@Japan	24年1月	-				
	メガネレンズモノマー能力増強@Japan 2025.01.15公表	28年度上期	-				
	DNAチップ研究所社完全子会社化	25年度1Q	-				
モビリティソリューション	タフマー®新設@Singapore	25年度下期	120KT				
	高機能PP新設備@Japan	25年度下期	200KT				
ICTソリューション	イクロステーブ™能力増強@Taiwan	24年6月	380万㎡				
	三井化学セロの株式分割及び一部株式譲渡	24年4月	-				
	ポリウレタンディスパージョン(PUD)能力増強@Japan	25年6月	+100%				
	特殊イソシアネートXDI能力増強@Japan	25年9月	+20%				
	次世代EUV露光用CNTベリクル生産設備@Japan	25年12月	5千枚				
	半導体実装領域における材料開発強化に向けた出資	25年3月	-				
B&GM	錦湖三井化学 MDI能力増強@Korea	24年9月	200KT				
新事業・新製品	第2号CVCファンド(321Catalyst™)設立	25年5月	-				

最適化・再構築	高純度テレフタル酸(PTA)生産停止@Japan	23年8月	400KT	生産停止			
	ポリエチレンテレフタレート(PET)の生産停止@Japan	24年10月	145KT	生産停止			
	TDI生産能力最適化@Japan	25年7月	120KT→50KT	生産能力最適化			
	市原フェノールの生産停止@Japan	25年10月	190KT	生産停止			
	フェノールJV持分譲渡@China	25年10月	-	持分譲渡			
	千葉地区LLPEチレン装置集約による生産最適化の検討	27年度	-				生産最適化
	モビリティセグメント子会社株式譲渡@Japan(産業資材)	25年4月	-	株式譲渡			
	三フッ化窒素(NF3)生産停止@Japan	26年3月	-				生産停止

25年度 商業運転開始等

3-1) 第1四半期決算の概要

(単位：億円)

摘 要	24年度 1Q決算	25年度 1Q決算	増減	増減率
売上収益	4,495	4,154	△ 341	△8%
コア営業利益	302	266	△ 36	△12%
(うち、持分法による投資損益)	36	44	8	22%
非経常項目	△ 30	△ 138	△ 108	-
営業利益	272	128	△ 144	△53%
金融収益・費用	21	△ 28	△ 49	-
税引前四半期利益	293	100	△ 193	△66%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	179	7	△ 172	△96%

為替レート(円/US\$)

156

145

△ 11

国産ナフサ(円/KL)

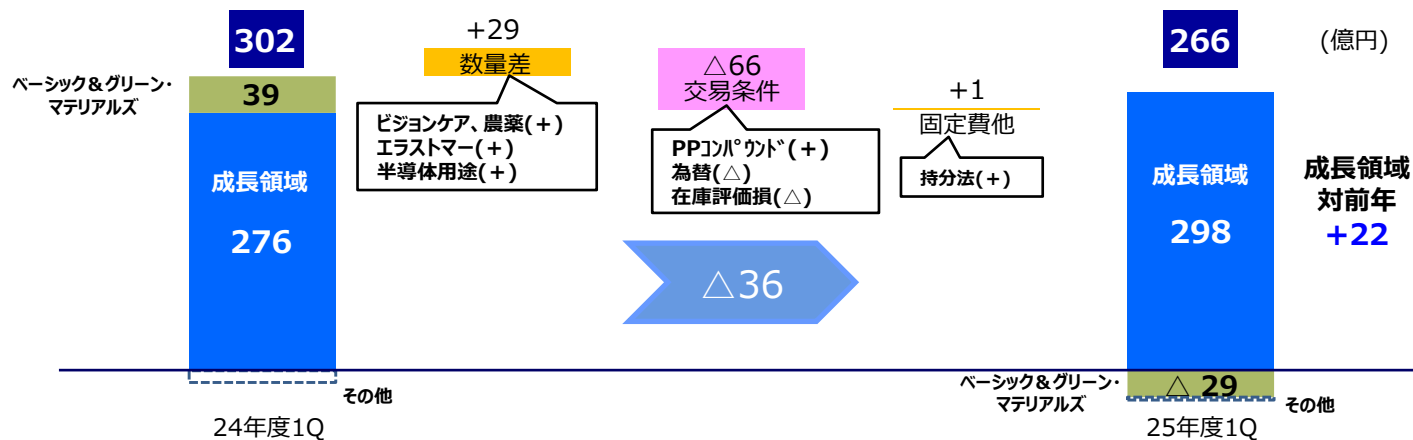
79,000

66,300

△ 12,700

3-2) 第1四半期決算の概要：コア営業利益（対前年同期）

項目	内容	損益増減
数量	・ビジョンケアは需要堅調により販売数量増加 ・農薬は需要堅調により販売数量増加 ・成長市場への多用途展開によりエラストマーの販売数量増加 ・半導体関連は先端領域の需要拡大および市場の回復により販売数量増加	(+) (+) (+) (+)
交易条件	・PPコンパウンドは価格改定による一時的な交易条件改善 ・為替差による交易条件の悪化 ・原料価格下落に伴う在庫評価損	(+) (△) (△)
固定費他	・持分法投資損益の改善	(+)



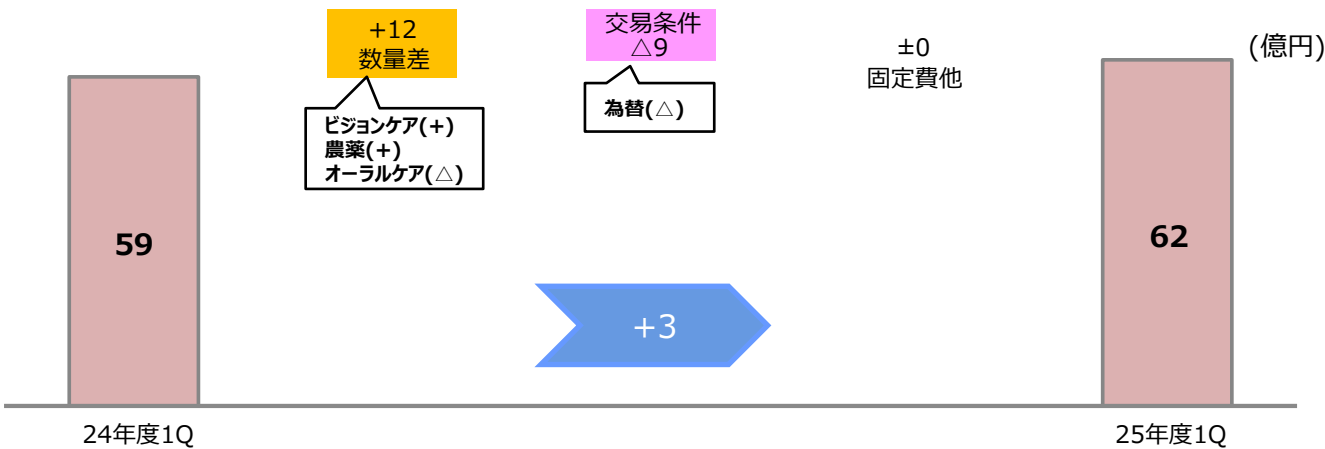
4) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減 (対前年同期)

(単位：億円)

セグメント	売上収益			コア営業利益			増減内訳		
	24年度 1Q決算	25年度 1Q決算	増減	24年度 1Q決算	25年度 1Q決算	増減	数量差	交易条件	固定費他
ライフ＆ヘルスケア・ソリューション	566	563	△ 3	59	62	3	12	△ 9	0
モビリティソリューション	1,403	1,302	△ 101	155	146	△ 9	2	△ 12	1
ICソリューション	683	690	7	62	90	28	29	1	△ 2
成長領域	2,652	2,555	△ 97	276	298	22	43	△ 20	△ 1
ベーシック＆グリーン・マテリアルズ	1,808	1,562	△ 246	39	△ 29	△ 68	△ 14	△ 46	△ 8
その他	35	37	2	△ 13	△ 3	10	-	-	10
合計	4,495	4,154	△ 341	302	266	△ 36	29	△ 66	1

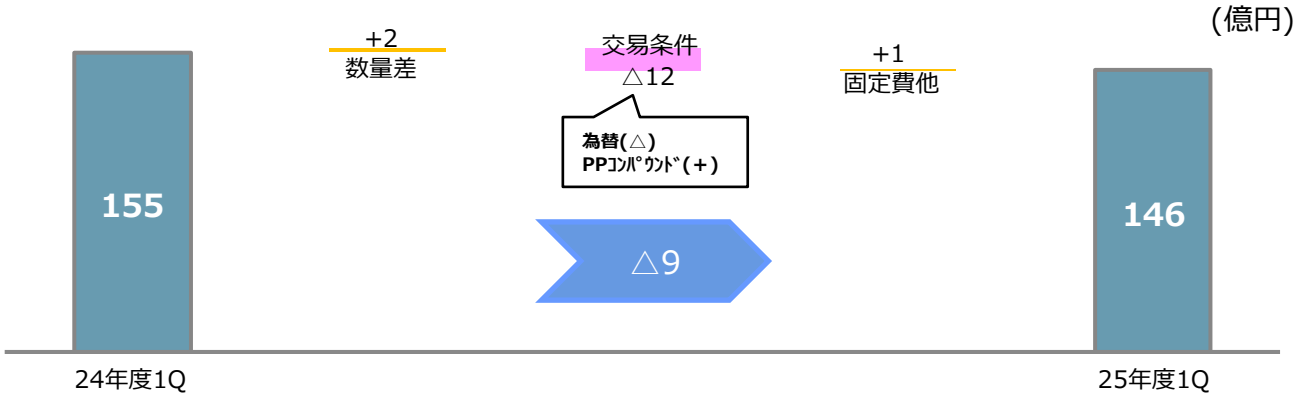
5-1) ライフ&ヘルスケア・ソリューション:コア営業利益増減/事業動向 (対前年同期)

	25年度第1四半期決算/事業動向	主要増減要因
ビジョンケア	 ・需要堅調により販売数量増加	数量(+)
オーラルケア	 ・在庫調整の影響により販売数量減少 ・事業構造改善を着実に推進	数量(△)
農薬	 ・一部地域で在庫調整の影響は続くものの、国内中心に販売は堅調に推移 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(△)



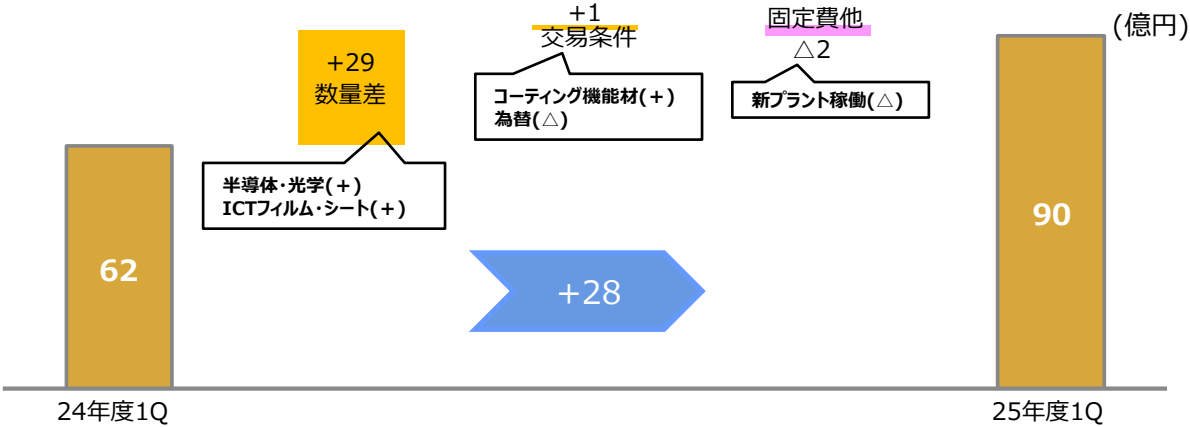
5-2) モビリティソリューション:コア営業利益増減/事業動向 (対前年同期)

	25年度第1四半期決算/事業動向	主要増減要因
エラストマー	 ・成長市場への多用途展開による販売数量増加 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(Δ)
複合材料 (PPコンパウンド 機能性コンパウンド)	 ・原料価格変動に伴う価格改定による一時的な交易条件改善 ・円高による為替差損	交易条件(+) 為替(Δ)
ソリューション事業	 ・事業構造改善を着実に推進	—

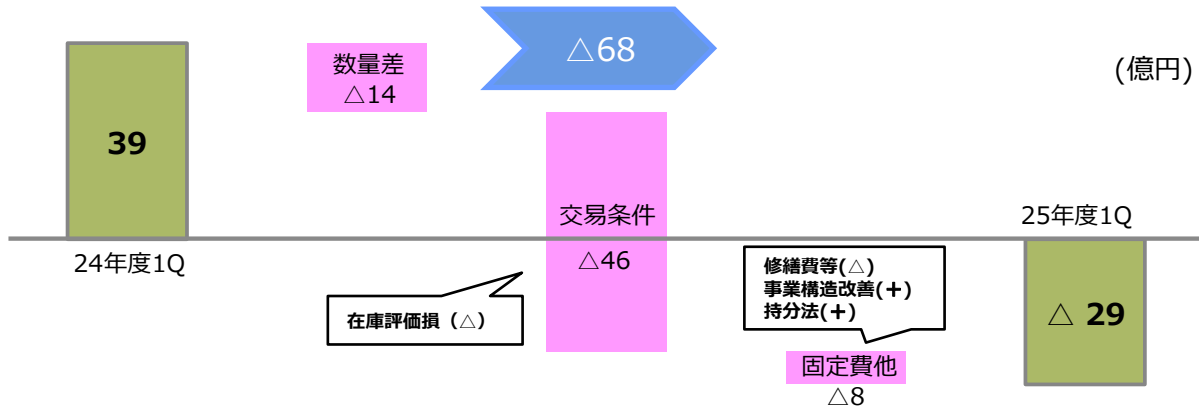


5-3) ICTソリューション:コア営業利益増減/事業動向 (対前年同期)

	25年度第1四半期決算/事業動向	主要増減要因
半導体・光学	 ・先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(Δ)
コーティング機能材	 ・原料価格変動に伴う交易条件の改善 ・円高による為替差損 ・新プラント稼働による固定費増加(PUD能力増強)	交易条件(+) 為替(Δ) 固定費(Δ)
ICTフィルム・シート	 ・先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(Δ) 固定費(Δ)
不織布	 ・事業構造改善を着実に推進	-



	25年度第1四半期決算/事業動向	主要増減要因
石化	 ・原料価格下落による在庫評価損	数量(△) 在庫(△) 固定費(△)
基礎化	 ・原料価格下落による在庫評価損 ・事業構造改善による収益改善	数量(△) 在庫(△) 固定費(△) 構造改善(+)
ウレタン	 ・持分法投資損益の増加	持分法(+)



6) 非経常項目の内訳

(単位：億円)

摘 要	24年度 1Q決算	25年度 1Q決算	増減	内容
減 損 損 失	△ 31	△ 124	△ 93	25年度1Q 中国PH事業JV持分譲渡* △124
関 連 事 業 損 失	—	△ 9	△ 9	25年度1Q KulzerおよびARRK 事業構造改善
そ の 他	1	△ 5	△ 6	
非経常項目 合計	△ 30	△ 138	△ 108	

*25年度年間：25年度下期に持分譲渡に伴う為替換算調整勘定の実現益 +45億円程度を見込むため、
年間での影響額は △80億円程度の見込み。

7) 財政状態計算書

(単位：億円)

摘 要	25年3月末	25年6月末	増減	摘 要	25年3月末	25年6月末	増減
流動資産	(10,412)	(9,995)	(△ 417)	負債	(11,834)	(11,547)	(△ 287)
現金及び 現金同等物	1,706	1,805	99	営業債務	1,578	1,436	△ 142
営業債権	3,495	3,153	△ 342	有利子負債	7,917	8,033	116
棚卸資産	4,428	4,332	△ 96	その他	2,339	2,078	△ 261
その他	783	705	△ 78				
非流動資産	(11,128)	(11,088)	(△ 40)	資本	(9,706)	(9,536)	(△ 170)
有形固定資産及び 使用権資産	6,692	6,741	49	親会社の所有者に 帰属する持分	8,483	8,299	△ 184
のれん及び 無形資産	873	949	76	非支配持分	1,223	1,237	14
非流動の その他の資産	3,563	3,398	△ 165				
合 計	21,540	21,083	△ 457	合 計	21,540	21,083	△ 457

総資産は、主に原料価格の変動および定期修理に伴う売掛金・棚卸資産の減少、中国PH事業ライトアセットにより、対前年度末△457億円の21,083億円となった。

8) キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

摘 要	24年度 1Q決算	25年度 1Q決算	増減
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	398	454	56
(うち運転資金)	50	282	232
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 239	△ 247	△ 8
(うち事業売却等による収入)	111	97	△ 14
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	159	207	48
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 111	△ 88	23
IV. その他 (現金等に係る換算差額)	84	△ 20	△ 104
現金及び現金同等物増減	132	99	△ 33

- ・営業キャッシュ・フロー：主に運転資金の改善により対前年同期比+56億円増加の +454億円となった。
- ・投資キャッシュ・フロー：引き続き積極投資を進めている一方、事業ポートフォリオ変革に伴う、事業売却による収入もあり、△247億円となった。

3. 2025年度上期業績予想の概要

・25年度より、エム・エーライフマテリアルズ株式会社はライフ＆ヘルスケア・ソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。また、他一部の関係会社についてモビリティソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。
なお、24年度のセグメントも、変更後の報告セグメント区分に基づき作成しております。

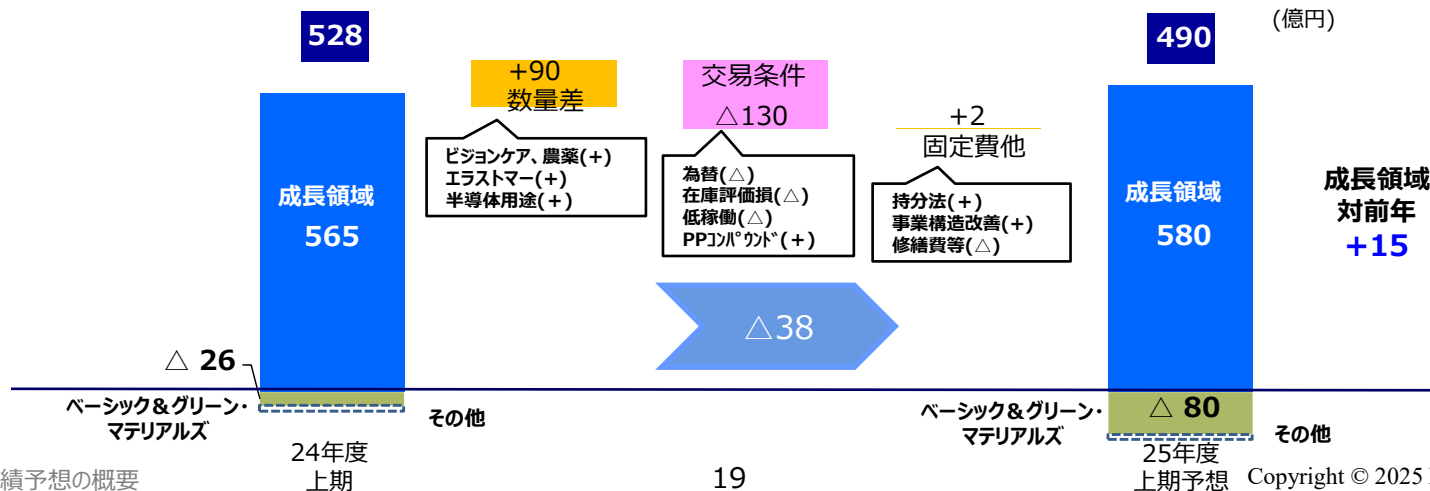
1 - 1) 上期業績予想の概要 (対前年同期)

(単位：億円)

摘 要	24年度	25年度予想	増減	
	4-9月(a)	4-9月(b)	(b)-(a)	%
売上収益	8,904	8,180	△ 724	△8%
コア営業利益	528	490	△ 38	△7%
非経常項目	△ 68	△ 180	△ 112	—
営業利益	460	310	△ 150	△33%
金融収益・費用	△ 52	△ 50	2	—
税引前中間利益	408	260	△ 148	△36%
親会社の所有者に帰属する 中間利益	222	75	△ 147	△66%
為替レート(円/US\$)	153	145	△ 8	
国産ナフサ(円/KL)	77,950	65,650	△ 12,300	
	中間	中間	増減	
配 当	75 円/株	75 円/株	—	

1 - 2) 上期業績予想の概要：コア営業利益（対前年同期）

項目	内容	損益増減
数量	・ビジョンケアは需要堅調により販売数量増加	(+)
	・農薬は需要堅調により販売数量増加	(+)
	・成長市場への多用途展開によりエラストマーの販売数量増加	(+)
	・半導体関連は先端領域の需要拡大および市場の回復により販売数量増加	(+)
交易条件	・PPコンパウンドは価格改定による一時的な交易条件改善	(+)
	・為替差による交易条件の悪化	(△)
	・原料価格下落に伴う在庫評価損	(△)
	・クラッカーおよび誘導品の低稼働に伴うエネルギー効率悪化	(△)
固定費他	・持分法投資損益の改善	(+)
	・事業構造改善による収益改善	(+)
	・市原大定修に伴う固定費の増加	(△)

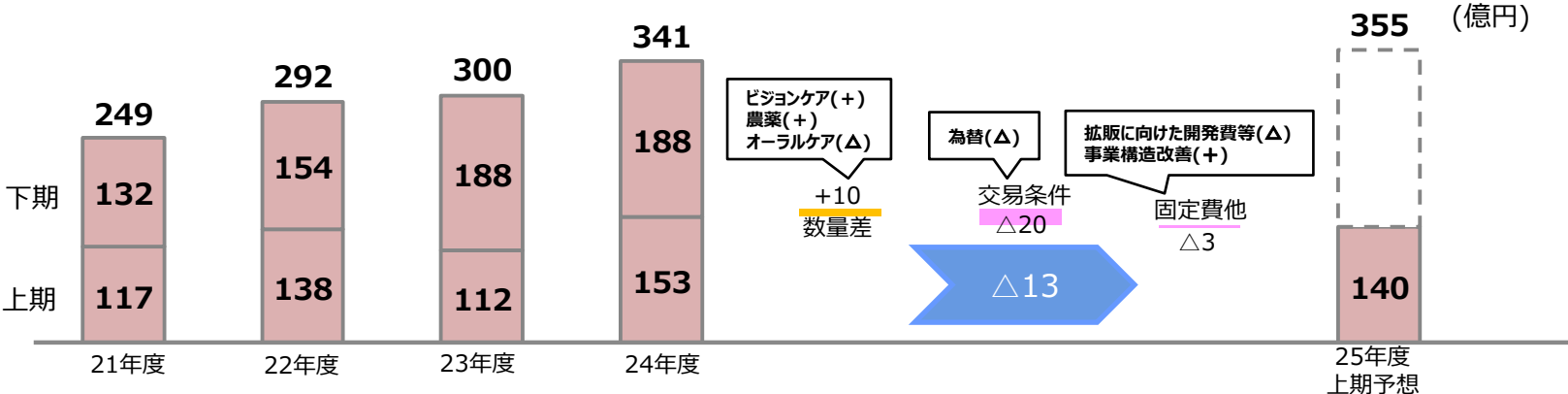


2) セグメント別 売上収益/コア営業利益予想 (対前年同期)

(単位：億円)

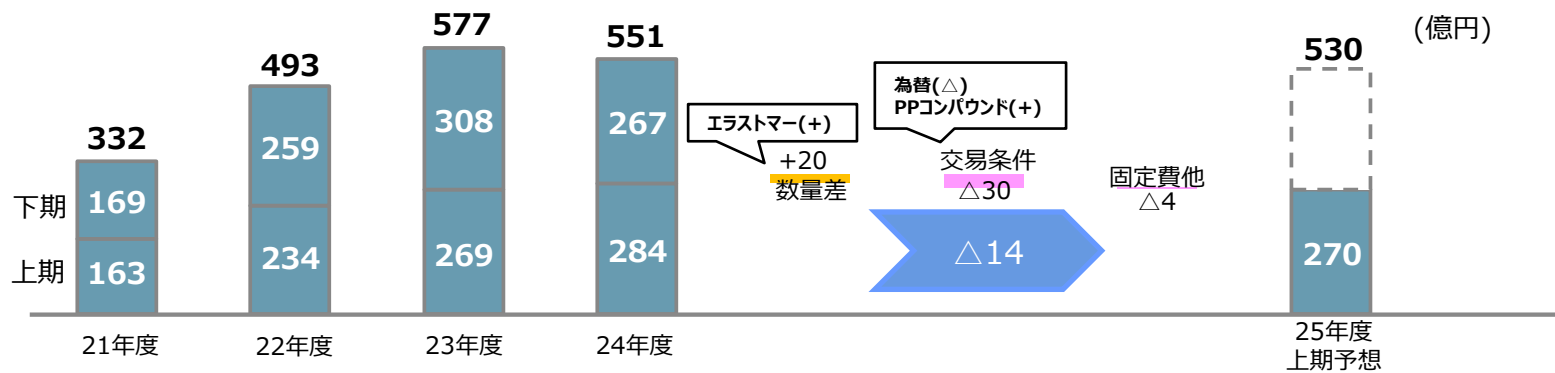
セグメント		売上収益			コア営業利益			増減内訳		
		24年度決算	25年度予想	増減	24年度決算	25年度予想	増減	数量差	交易条件	固定費他
		4-9月	4-9月		4-9月	4-9月				
	ライフ & ヘルスケア・ソリューション	1,155	1,150	△ 5	153	140	△ 13	10	△ 20	△ 3
	モビリティ・ソリューション	2,768	2,600	△ 168	284	270	△ 14	20	△ 30	△ 4
	ICソリューション	1,398	1,400	2	128	170	42	55	△ 5	△ 8
	成長領域	5,321	5,150	△ 171	565	580	15	85	△ 55	△ 15
	ベーシック & グリーン・マテリアルズ	3,510	2,950	△ 560	△ 26	△ 80	△ 54	5	△ 75	16
	その他	73	80	7	△ 11	△ 10	1	-	-	1
	合計	8,904	8,180	△ 724	528	490	△ 38	90	△ 130	2

	25年度上期予想/事業動向	主要増減要因
ビジョンケア	 ・需要堅調により販売数量増加	数量(+) 固定費(Δ)
オーラルケア	 ・在庫調整の影響により販売数量は減少 ・事業構造改善は着実に進捗(販売拠点の整理)	数量(Δ) 構造改善(+)
農薬	 ・一部地域で在庫調整の影響は続くものの、国内中心に販売は堅調に推移 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(Δ) 固定費(Δ)



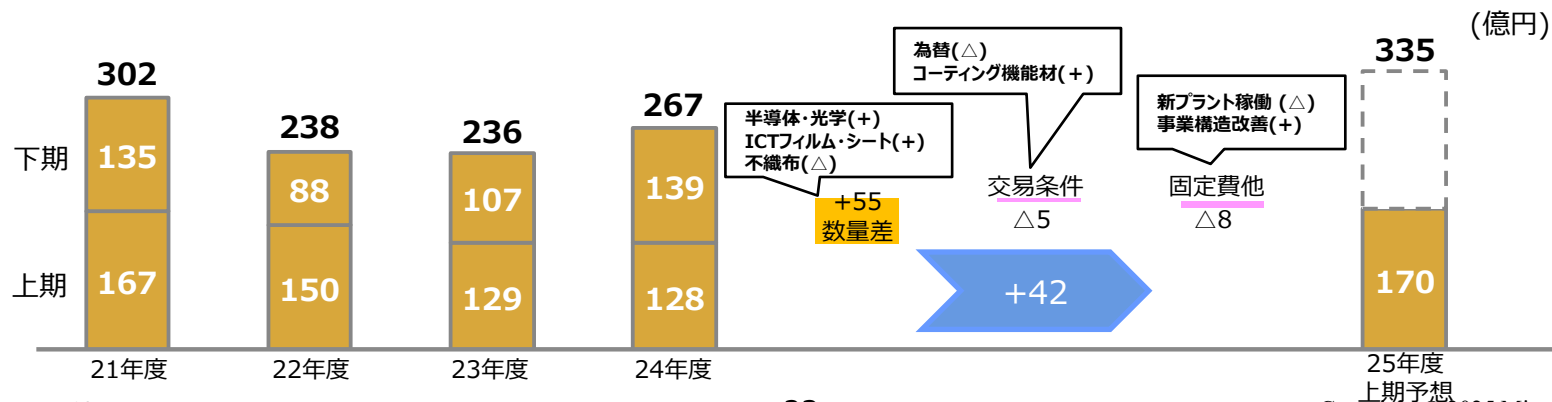
3-2) モビリティ・ソリューション:コア営業利益増減/事業動向 (対前年同期)

	25年度上期予想/事業動向	主要増減要因
エラストマー	 ・成長市場への多用途展開による販売数量増加 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(△)
複合材料 (PPコンパウンド 機能性コンパウンド)	 ・原料価格変動に伴う価格改定による一時的な交易条件改善 ・円高による為替差損	交易条件(+) 為替(△)
ソリューション事業	 ・事業構造改善は着実に進捗(アドミ機能合理化)	—

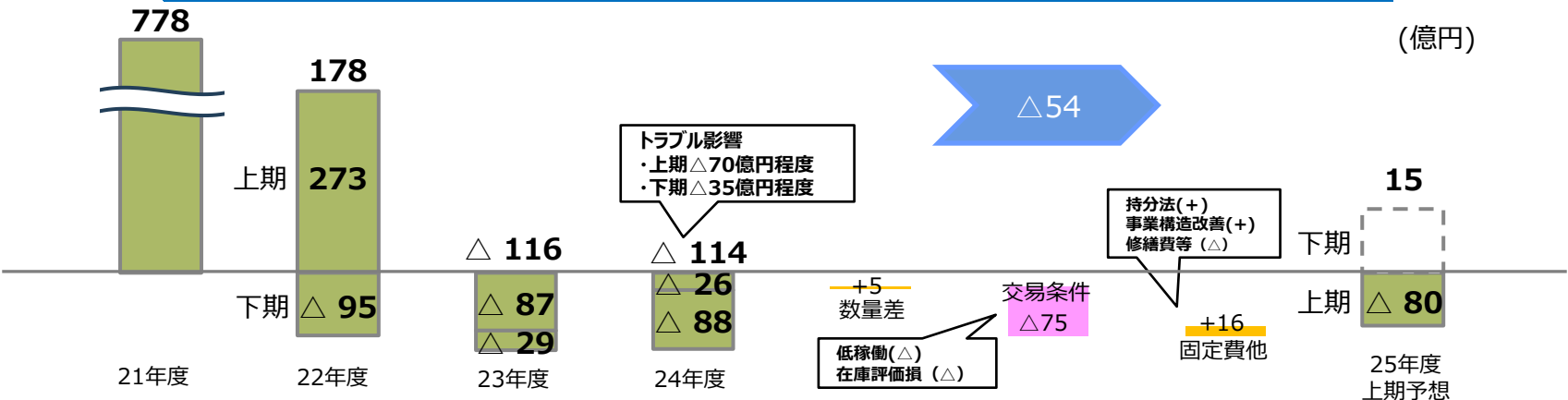


3-3) ICTソリューション: コア営業利益増減/事業動向 (対前年同期)

	25年度上期予想/事業動向	主要増減要因
半導体・光学	・先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(△)
コーティング機能材	・原料価格変動に伴う交易条件の改善 ・円高による為替差損 ・新プラント稼働による固定費増加(PUD・特殊イソシアネート能力増強)	交易条件(+) 為替(△) 固定費(△)
ICTフィルム・シート	・先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加 ・円高による為替差損	数量(+) 為替(△) 固定費(△)
不織布	・衛生材料の販売数量は減少 ・事業構造改善は着実に進捗(生産体制最適化)	数量(△) 構造改善(+)



	25年度上期予想/事業動向	主要増減要因
石化	• 24年度大阪エチレンプラントトラブル影響の解消 • 低稼働に伴うエネルギー効率悪化 • 原料価格下落による在庫評価損 • 市原大定修に伴う固定費増加	数量(Δ) トラブル解消(+) 交易条件(Δ) 在庫(Δ) 固定費(Δ)
基礎化	• 原料価格下落による在庫評価損 • 事業構造改善による収益改善	数量(Δ) 在庫(Δ) 構造改善(+)
ウレタン	• 持分法投資損益の増加 • 事業構造改善による収益改善	持分法(+) 構造改善(+)



4) セグメント別 コア営業利益増減 (1Q→2Q)

(単位：億円)

セグメント	25年度 コア営業利益			主要増減要因
	4-6月	7-9月 予想	増減	
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	62	78	16	数量(+) 農薬
モビリティソリューション	146	124	△ 22	交易条件(△) PPコンパウンド
ICTソリューション	90	80	△ 10	固定費(△) 新プラント
成長領域	298	282	△ 16	
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	△ 29	△ 51	△ 22	交易条件(△) 低稼働影響 固定費(△) 市原大定修
その他	△ 3	△ 7	△ 4	
合計	266	224	△ 42	

5) キャッシュ・フロー計算書の予想

(単位：億円)

摘 要	24年度	25年度予想	増減
	4-9月	4-9月	
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	1,180	1,160	△ 20
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 483	△ 700	△ 217
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	697	460	△ 237
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,045	△ 360	685
IV. その他 (現金等に係る換算差額)	△ 45	0	45
現金及び現金同等物増減	△ 393	100	493

4. 補助資料

- 1) 製品価格の状況
- 2) 売上収益の増減概要
- 3) セグメント別 売上収益/コア営業利益の内訳（四半期別）
- 4) セグメント情報
- 5) データハイライト

1) 製品価格の状況

(P E国内、P P国内、P H国内、B P A国内：国内価格改定幅)

年		2022年		2023年				2024年				2025年	
月		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
国産標準 ナフタ価格	(円/KL)	81,400	72,500	66,500	67,500	63,600	72,800	72,500	79,000	76,900	73,200	73,400	66,300
P E国内	(円/KG)	△10円 程度	△15円 程度	△10円 程度	+8円 程度	△6円 程度	+20円 程度	△3円 程度	+22円 程度	△5円程度	△7円程度	△1円程度	△11円程度
P P国内	(円/KG)	△10円 程度	△15円 程度	△10円 程度	+8円 程度	△6円 程度	+20円 程度	△3円 程度	+22円 程度	△5円程度	△7円程度	△1円程度	△11円程度
P H国内 (フェニール価格)	(円/KG)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
B Z (* A C P)	(\$/T)	\$1,120	\$880	\$930	\$940	\$870	\$950	\$995	\$1,085	\$1,040	\$930	\$930	\$770
B P A国内	(円/KG)	→	△14円 (12月～)	△17円 (3月～)	+16円 (6月～)	→	→	→	+19円 (6月～)	→	△14円 (10月～)	△10円 (1月～)	→
		BZ/BPA市況をベースに都度交渉											
T D I 中国市況	(\$/T)	\$2,320	\$2,410	\$2,430	\$2,190	\$2,060	\$1,950	\$1,920	\$1,950	\$1,880	\$1,750	\$1,780	\$1,560

* ACP アジア圏契約価格

(単位：億円)

セグメント	売上収益			増減内訳		主要増減要因
	24年度 4-6月	25年度 4-6月	増減	数量差	価格差	
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	566	563	△ 3	17	△ 20	数量) ビジョンケアの販売は堅調 価格) 為替影響等
モビリティソリューション	1,403	1,302	△ 101	7	△ 108	数量) エラストマーの販売は堅調 価格) 為替影響等
ICTソリューション	683	690	7	23	△ 16	数量) 半導体関連の販売は堅調 価格) 為替影響等
成長領域	2,652	2,555	△ 97	47	△ 144	
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	1,808	1,562	△ 246	△ 78	△ 168	数量) 事業構造改善(プラント停止等) 価格) 原料価格下落による価格改定
その他	35	37	2	-	2	
合計	4,495	4,154	△ 341	△ 31	△ 310	

3) セグメント別 売上収益/コア営業利益の内訳 (四半期別)

(単位：億円)

セグメント	売上収益*					
	24年度				25年度	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月予想
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	566	589	573	789	563	587
モビリティソリューション	1,403	1,365	1,397	1,386	1,302	1,298
ICTソリューション	683	715	698	680	690	710
成長領域	2,652	2,669	2,668	2,855	2,555	2,595
ベーシック&グリーン・マテリアルズ	1,808	1,702	1,779	1,811	1,562	1,388
その他	35	38	37	38	37	43
合計	4,495	4,409	4,484	4,704	4,154	4,026

(単位：億円)

セグメント	コア営業利益*					
	24年度				25年度	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月予想
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	59	94	52	136	62	78
モビリティソリューション	155	129	148	119	146	124
ICTソリューション	62	66	83	56	90	80
成長領域	276	289	283	311	298	282
ベーシック&グリーン・マテリアルズ	39	△ 65	△ 47	△ 41	△ 29	△ 51
その他	△ 13	2	△ 6	△ 18	△ 3	△ 7
合計	302	226	230	252	266	224

*25年度より、ライフ&ヘルスケア・ソリューション、モビリティソリューションおよびICTソリューションの一部の関係会社のセグメントを見直しております。
変更後の報告セグメントで区分した四半期別の24年度の売上収益/コア営業利益となります。

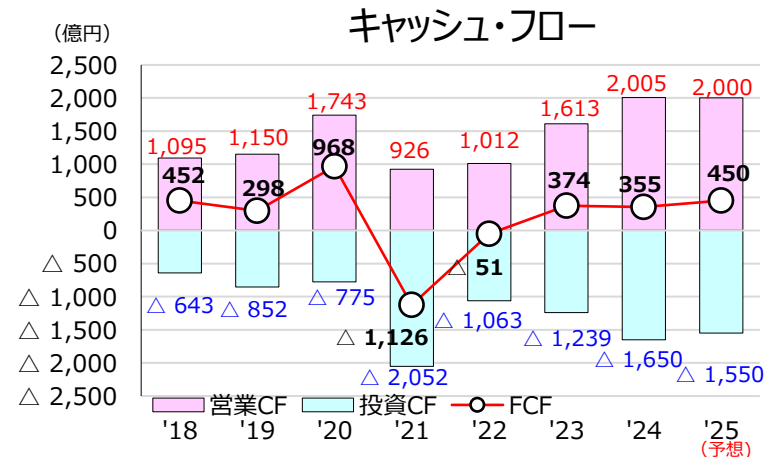
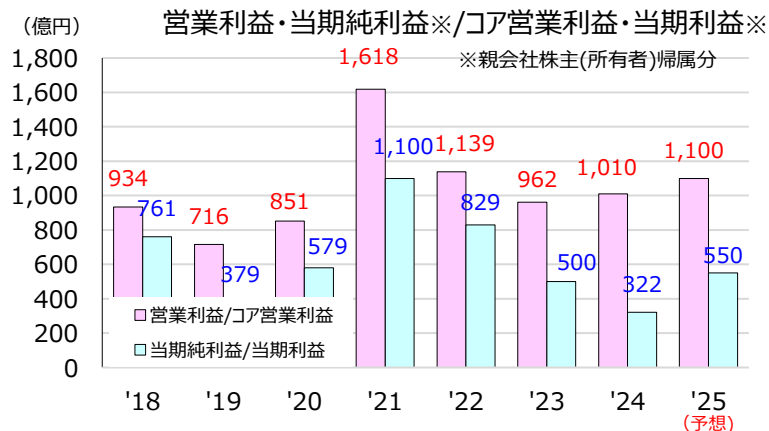
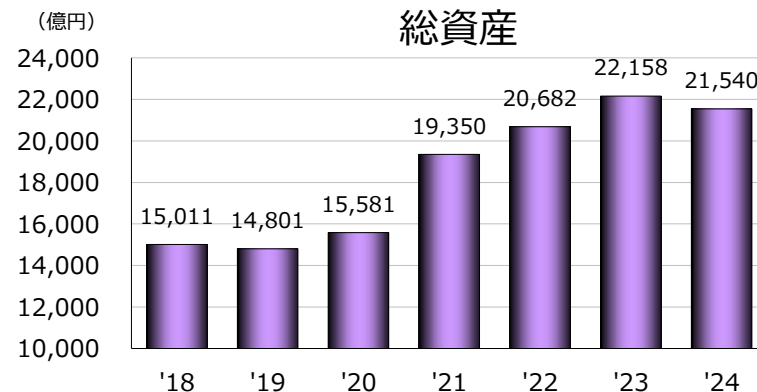
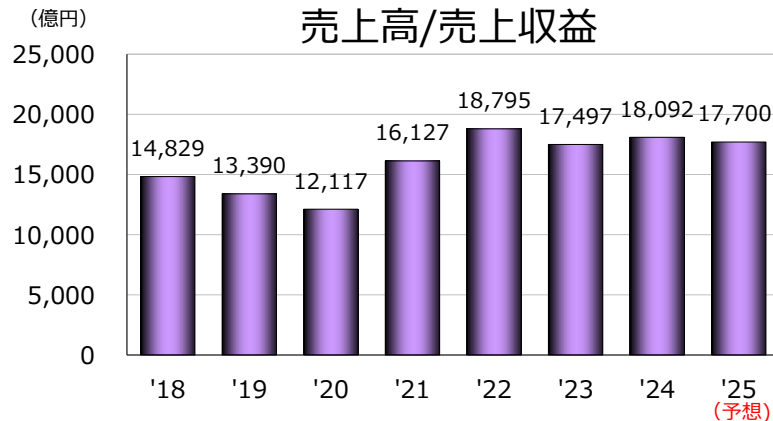
4) セグメント情報

セグメント	事業分野	主な製品等
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	ビジョンケア、 パーソナルケア オーラルケア、農薬、 医療事業推進室	プラスチックメガネレンズ材料（MR™、Do Green™）、 メディカル材料（タウリン）、 オーラルケア材料（充填材料、接着材料、デジタル機器）、 農薬（ジノテフラン、テネベナール®）
モビリティソリューション	エラストマー重合、 複合材料、 ソリューション事業、 モビリティソリューション事業推進室	タフマー®、三井EPT™、ルーカント®、 PPコンパウンド、機能性コンパウンド（アドマー®、ミラストマー®、アーレン®）  
ICT ソリューション	半導体・光学、 コーティング機能材、 ICTフィルム・シート、 ICT材料事業推進室、不織布*	三井ベリクル™（DUV、EUV、FPD）、アベル®、TPX®、半導体用ガス、 高機能食品包装材料（シーラント、接着剤、コート剤、環境対応包材）、 ICTフィルム・シート（イクロステープ™、SP-PET™）、 不織布*（衛生材料、産業資材）
ベーシック & グリーン・ マテリアルズ	フェノール、PTA・PET、 インダストリアルケミカルズ、 サステナブル・フィードストック、 ポリオレフィン、ライセンス、 ポリウレタン材料 グリーンケミカル事業	フェノール、ビスフェノールA、アセトン、PTA、PET、 EO、ハイドロキノン、アンモニア、排ガス低減剤（アドブルー®*）、 ポリオレフィン、TDI、MDI *アドブルーはドイツ自動車工業会の登録商標です。

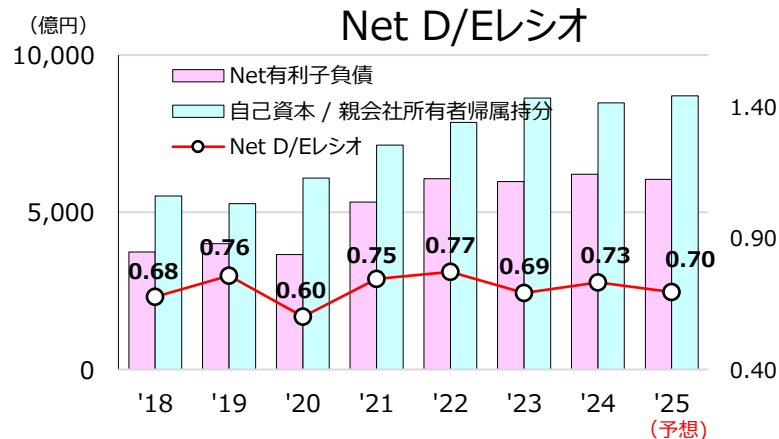
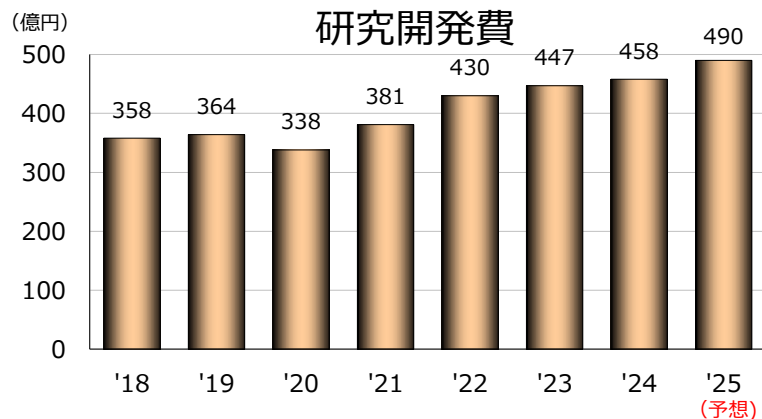
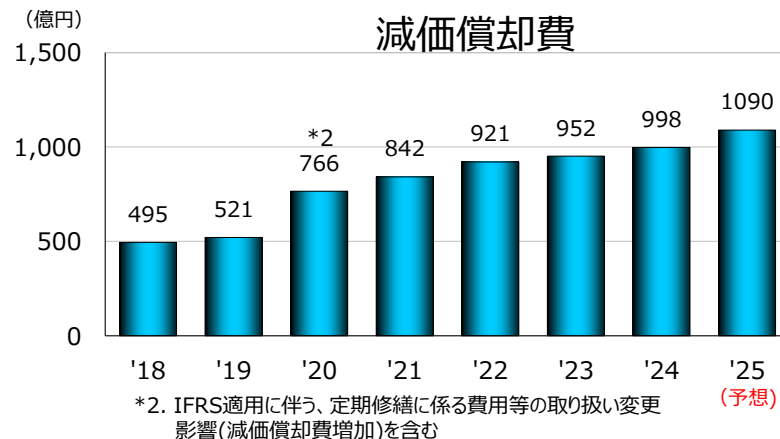
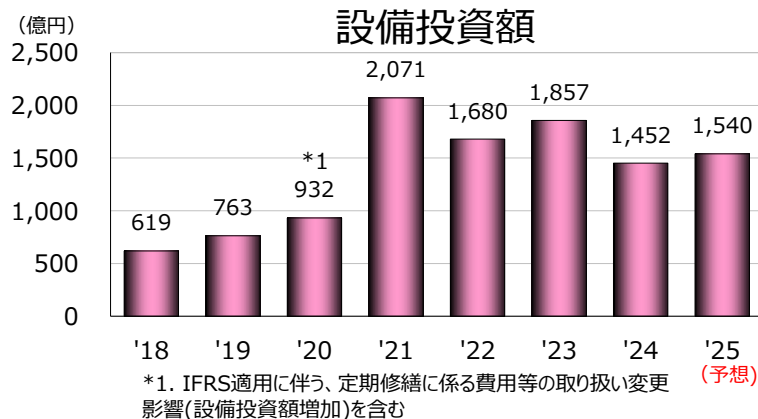
*不織布事業および製品は24年度まではライフ & ヘルスケア・ソリューションですが、25年度からはICTソリューションへセグメントを見直しております。

5-1) データハイライト

注) ～19年度：日本基準 / 20年度～：IFRS



注) ~19年度：日本基準 / 20年度～：IFRS



未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World



三井化学

Challenge Diversity One Team